

取扱説明書

FL2100

八重洲無線株式会社

目 次

特	長	2
定	格	2
設	置 に つ い て	3
	ツマミ・スイッチ・コネクタなどの説明	4
本	機 の 使 用 方 法	6
回	路 と 動 作 に つ い て	10
保	守 と 調 整 に つ い て	12
パ	ー ツ リ ス ト	13

ご注意

このセットは、内部に2400Vの高圧がかかっている部分があります。みだりに内部を開けて手をふれないようにしてください。保守・調整のために内部にふれる場合は感電しないよう十分に注意してください。高圧電源は容量が大きいため感電すると貴方の生命に危険をおよぼしますので、くれぐれも注意してください。

FL2100 取扱説明書

このたびは当社製品FL2100型リニア・アンプをお選びいただき、ありがとうございます。

このセットの内部には極めて高い電圧がかかっている部分がありますので間違った取扱いをされると真空管その他の部品がこわれるだけでなく、あなたの生命に危険を及ぼすこともありますので、通電まえにこの取扱説明書を十分お読みになり、よくご理解いただいたうえでお使いください。



FL2100型リニア・アンプにはつぎのものが付属しています。梱包を開いた後、本体に異常のないことを確かめていただくとともに、これらの付属品の有無をしらべてください。

FL2100 付属品・予備品

- 1 同軸コネクタ・プラグ…………… 2 個
(JPL-259)
- 2 ヒューズ…………… 2 個
(ガラス管入り 20A)

お手許にお届けしたセットは八重洲無線が心をこめて作り、注意深く調整、検査して出荷してありますが、万一輸送中の取扱不

注意などのため不都合なところがありましたら、なるべく早く当社・池上工場サービス課または大阪サービスステーション宛ご連絡ください。

郵便番号145

東京都大田区久が原1丁目2番15号
八重洲無線株式会社営業部サービス課
電話 東京(03)753-6141 (代表)

郵便番号556

大阪市浪速区日本橋東5丁目15番27号
八重洲無線株式会社大阪サービスステーション
電話 大阪(06)641-6482

***** 特 長 *****

FL2100型リニア・アンプはSSBのヤエスが先に発売して内外のアマチュア諸氏からご好評をいただいている高級SSBトランシーバーFT-101と組合せるリニア・アンプとして新たに発売するものでつぎのような特長をそなえています。

★FT-101型トランシーバーと同じサイズのケースにおさめ、FT-101にマッチさせたデザインです。

・姉妹機FL2000B型リニア・アンプと同じくSSB送信機専用3極管572Bを2本並列に使った回路で、その優秀さはすでにFL2000Bで実証されています。

・2個のクーリング・ファンを内蔵して小型にまとめたデスクトップタイプで設置に大きなスペースをとりません。

・SWRメーターを内蔵していることはヤエスの他のリニア・アンプと同様ですが、FL2100にはさらにプレート電圧計を追加して高圧電源電圧が監視できるようになりました。

★アンプ部のシールドケースのふたをとると自動的に高圧電源が接地される安全対策がとられています。

***** 定 格 *****

本機の定格と使用している真空管および半導体素子は第1表のとおりです。

回路方式	AB級接地格子型直線増幅器
周波数範囲	3.5MHz帯から28MHz帯のアマチュアバンド
許容最大入力	1200W D.C.
プレート電圧	2400V
励振電力	50～100W P.E.P.
入力インピーダンス	50Ω 不平衡
出力インピーダンス	50～75Ω 不平衡
冷却方式	2個の内蔵冷却ファンによる強制空冷
電源	100/110/117/200/220/234V A.C. 50/60Hz
消費電力	スタンバイ時約130VA, 最大入力時1.85KVA
外形寸法	幅 340, 高さ 153, 奥行 285mm
重量	約18.5kg
使用真空管	572B/T160L 2本
使用半導体素子	ゴールドボンド・ダイオード 1S 1007 3本
		シリコン整流ダイオード 1S 1943 2本
		シリコン整流ダイオード 10D10 10本

〔第1表〕 FL2100定格

*****設置場所について*****

設置場所について

本機はデスクトップ型のリニア・アンプですから貴局のオペレーションデスクにトランシーバーなどと並べて置いていただくことができますが通風の悪い場所、発熱源の上などに置くと内蔵の冷却用ファンが十分にその効果を果たすことができなくなりますので送信機、トランシーバー、他の電源装置などの熱を出す機器の上へのせたり、本機の上面を密閉するようなものを本機の上へのせるような状態で設置することは避けて、セットのためにできるだけ通風条件をよくして使っていただくことがセットの性能をフルに発揮させ、しかもセットを永もちさせるコツです。

アースについて

本機にはシャーシ後部にシャーシをアースするための端子がついています。できるだけ太い導線を使ってなるべく短かく大地に確実に接続してください。長い間ご使用いただいているうちに、どのようなことで内部の高電圧がシャーシにかからないとも限りません。そのようなときに感電事故からあなたを守るのは確実なアースです。

アンテナについて

本機に接続するアンテナは、本機に接続するところの給電点インピーダンスが 50Ω から 75Ω までの間のものであればどのような形式のアンテナをお使いになっても結構です。もし、この範囲外の給電点インピーダンスをもつアンテナを接続なさるときは本機とアンテナの間にアンテナカップラーなどの適当な整合回路をいれて本機の実出力端子に接続される点のインピーダンスが上記の範囲にはいるようにしてください。そうしないと本機の実出力ハイパワーが無駄になってしまいます。また、 50Ω ～ 75Ω になっているはずのアンテナでも、本

機内蔵のSWRメーターの指示が3.0以上の値を示す場合は運用する前にもう一度アンテナ系統を点検してください。SWR3.0以上の条件で使いますと内部の部品がこわれる場合があります。

エキサイターについて

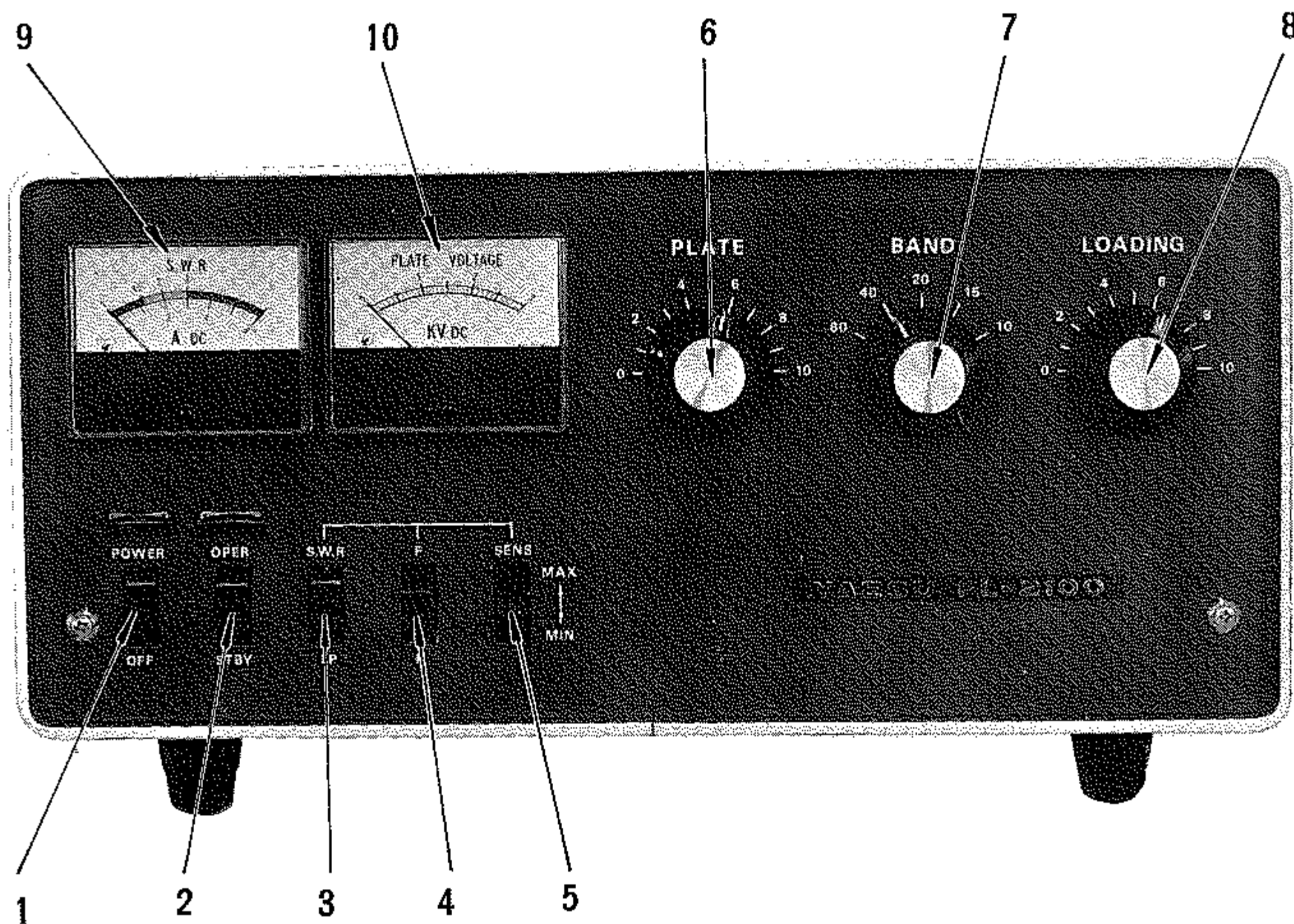
本機を許容最大入力で動作させるためには、励振電力として50～100WP.E.P.の電力を必要とします。当社の製品ではFT-101のほか、FT-200、FLdx401、FT-401DなどのトランシーバーおよびFLdx400送信機が適しています。FT-101S、FT-200S、FT-401Sなどのトランシーバーおよび、FL-50B送信機などJARL認定対象機をエキサイターとしてお使いになる場合は、入力が約500Wになります。エキサイターと本機を接続する同軸コード、アース線はできるだけ短くなるようにエキサイターを本機の近くにおくようにしてください。

電源について

本機はハイパワーを出すために、最大入力時で約18A、スタンバイ時でも1.3A(いずれも100V ACの時)という比較的大きな電流を必要とします。そのため本機の電源コード、プラグともにこの大電流に十分耐えるものを使ってありますが貴局のシャックでの電源配線も十分な電流容量のあるものを使ってください。間にあわせの不十分な配線、無理なタコ足配線などは火災などの大きな事故の原因になります。

本機の電源トランスは復巻方式で内部の接続を変えることにより100Vのほか、110V、117V、200V、220Vおよび234Vの各電源電圧で使用できますので動力用電源などで使用することもできます。

***** ツマミ・スイッチ・コネクタなどの説明 *****



〔写真1〕 パネル面のようす

本機のパネル面のようすを写真1に示します。以下、パネル面のスイッチその他についてご説明します。

(1)POWER スイッチ(S₃)

電源のオン・オフスイッチです。上に倒すとフィラメント、バイアス、B電源のすべてが供給され、同時にこのスイッチの上にあるインジケータのランプが点灯して電源がはいっていることがわかります。

(2)OPER-STBYスイッチ(S₄)

本機の動作を制御するスイッチで、STBYの位置にあるときは真空管にカットオフバイアスが供給されるとともにリレーの動作をとめて入出力端子がSWRメーター回路のみを通して接続されます。OPER側に倒すと本機は動作状態になりスイッチの上のランプが点灯してそのことを表示し、受信時は入出力端子が直結、送信時にはリニア・アンプとして動作することになります。

(3)SWR-IPスイッチ(S₅)

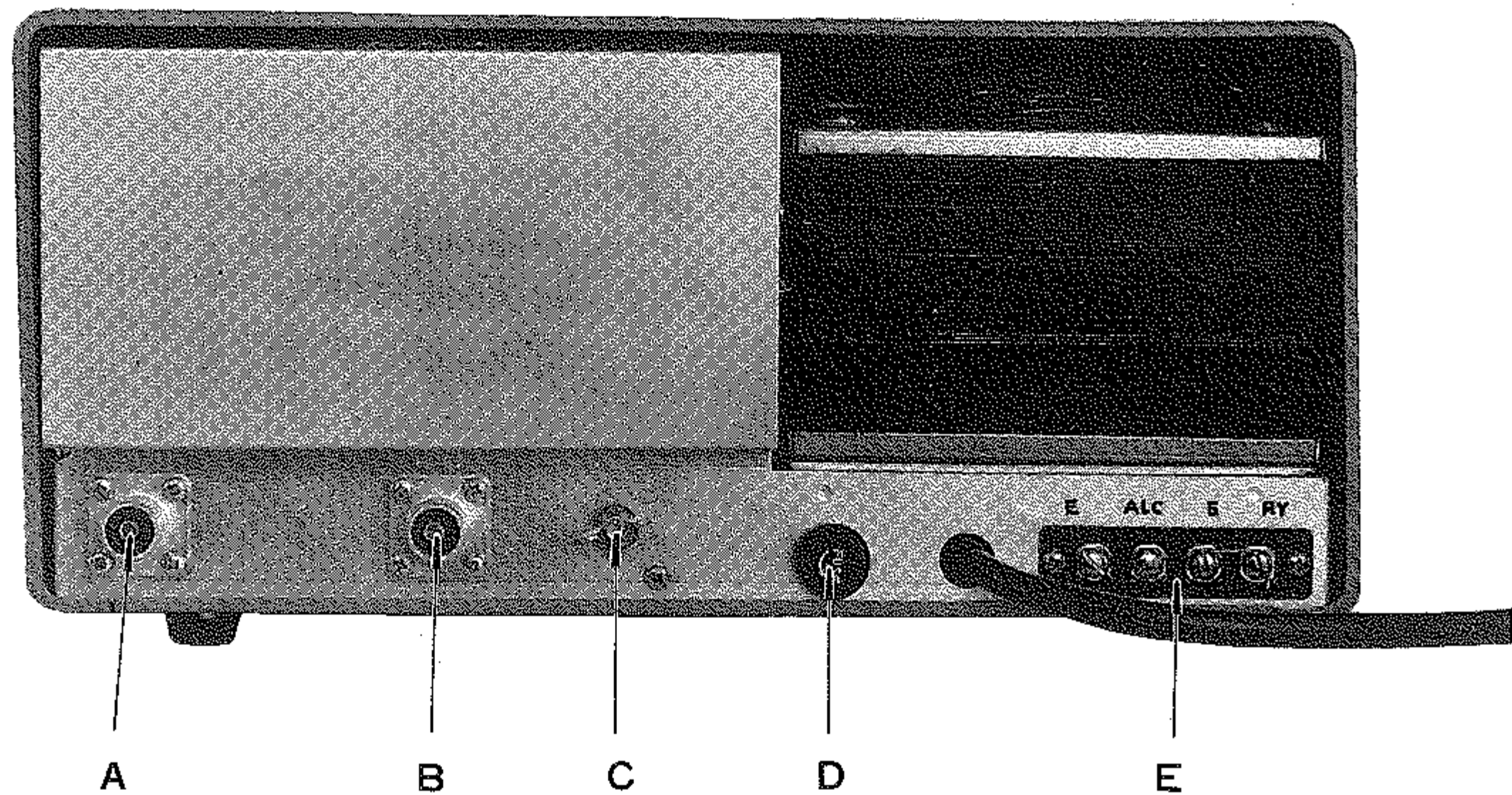
電流計の動作切換えスイッチで、SWRにしたときは電流計(パネル面左側のメーター)がSWR計としてはたつき、I Pにセットすれば2本の真空管のプレート電流の合計値を指示します。

(4)F-Rスイッチ(S₆)

S₅をSWR側に倒して電流計をSWR計として使うとき、このスイッチをF側にするとメーターは進行波電力に応じた指示をし、R側では反射波電力に応じた指示をします。これによってSWRを計ることができます。また、このスイッチをF側にしたままの状態ですと、電力の相対値を指示する通過型電力計として使うことができます。

(5)SENSツマミ(VR₃)

S₅をSWRにしたときの電流計の感度を変えるための可変抵抗器です。



〔写真2〕 シャシー背面のようす

(6) PLATEツマミ (VC₂₀₁)

最大容量115pFのプレート同調バリコンをまわすツマミです。0の位置では容量最大(約115pF)になり、10の位置では容量最小(約10pF)になります。

(7) BANDツマミ (S_{1, 2})

バンド切換えスイッチです。このスイッチによって入力同調回路と出力同調回路を切換えます。

(8) LOADINGツマミ (VC₂₀₂)

負荷の調整バリコンをまわすツマミです。このバリコンは430pF 2連バリコンです。0の位置で容量最大(軽負荷)となり、10の位置で容量最小(重負荷)になります。

(9) 電流計 (M₁)

ふた通りの目盛をもった電流計です。上側の目盛はSWRを読みとるための目盛で、緑、黄、赤に色分けをしております。このメーターをSWR計として使う場合、緑はアンテナとの整合がよいことを示し、黄色はあまりよくないが一応運用してよいことを示します。赤の部分を示す場合はそのままの状態では運用しないでください。下側の目盛はプレート電流計の目盛でフルスケール0.6Aになっています。

(10) 電圧計 (M₂)

真空管のプレート電圧計でフルスケール3kVになっています。

写真2は本機のシャシー背面のようすです。

(A) RF OUT (J₃)

送信時の出力端子でM型同軸レセプタクルを使ってあります。受信時には入力端子になります。付属の同軸プラグを使ってアンテナを接続してください。アンテナとの接続には5D-2V, RG-8/Uなどの大電力に十分耐える同軸コードを使用してください。

(B) RF IN (J₄)

エキサイターの出力を接続する端子です。付属の同軸プラグを使ってエキサイターの出力端子に接続してください。使用する同軸コードは3D-2V RG-58/U, 5D-2Vなどが適当です。エキサイターとの接続はできるだけ短くなるように注意してください。

(C) GND

アースを接続する端子です。アースについては3ページを参照してください。

(D) FUSE

電源のヒューズF₁を入れるヒューズホルダーです。ヒューズは電源電圧100~117Vの場合20A, 200~234Vの場合は15Aのガラス管入りのものを使用してください。

(E) 端子板 (J₅)

エキサイターにALCをかけるためのALC電圧を供給する端子と、エキサイターから本機のリレーを制御するためのリレー端子があります。エキサイターとの接続方法については6ページを参照してください。

***** 本機の使用方法 *****

エキサイターとの接続

エキサイターとの接続はエキサイターの機種によって異なります。当社の製品をエキサイターとしてお使いになる場合は**第2表**に従って各端子を接続してください。第2表以外のコネクタのうち

RF OUTはアンテナに、RF INはエキサイターの出力端子にそれぞれ接続します。一例として、FT-101をエキサイターとして使う場合および、FLdx400、FRdx400を組合わせて使う場合の接続方法を**第1図**に示しておきます。

端子板J ₅ 接続機種	E	ALC	E	RY
FL-50	REMOTE プラグ PIN 1	端子無し	REMOTE プラグ PIN 5	REMOTE プラグ PIN 6
FL-50B	REMOTE プラグ PIN 8	REMOTE プラグ PIN 7		REMOTE プラグ PIN 9
FL-100B FL-200B	REMOTE プラグ PIN 1, 5	端子無し	(REMOTE プラグ) PIN 5	REMOTE プラグ PIN 6
FLdx400 ソケット power out 7ピン型	REMOTE プラグ PIN 5, 9	power プラグ PIN 7		PEMOTE プラグ PIN 6
FLdx400 ソケット power out 11ピン型	REMOTE プラグ PIN 5	power プラグ PIN 7		REMOTE プラグ PIN 6
FT-50	REMOTE プラグ PIN 1	端子無し		REMOTE プラグ PIN 5
FT-100 FTdx100	REMOTE プラグ PIN 1	端子無し	REMOTE プラグ PIN 6	REMOTE プラグ PIN 5
FT-101 FT-101S FTdx401 FT-401D FT-401S FTdx400 ACC ソケット11ピン型 FT-400S	ACC プラグ PIN 8	ACC プラグ PIN 7		ACC プラグ PIN 9
FT-200 FT-200S	ACC プラグ PIN 8	ACC プラグ PIN 7	ACC プラグ PIN 10	ACC プラグ PIN 9
FTdx400 ACC ソケット 9ピン型	ACC プラグ PIN 1, 9	EXT. ALC		ACC プラグ PIN 8

注1：RF OUT, RF IN, GNDの各端子，コネクタの接続については3ページと5ページを参照のこと。

2：FTdx400, FTdx401の最大出力で励振するとオーバードライブになりますので出力を100W以下におさえて使用してください。

3：FL-50, FL-50B, FT-101S, FT-200S, FT-400S, FT-401Sの場合は，入力が約500Wになります。

〔第2表〕 エキサイターとの接続方法

送信の準備

エキサイターおよびアンテナの接続が終わったらPOWERスイッチがOFFになっていることを確かめたくて電源をつなぎます。

つぎにパネル面のスイッチおよびつまみをつぎのようにセットしてください。

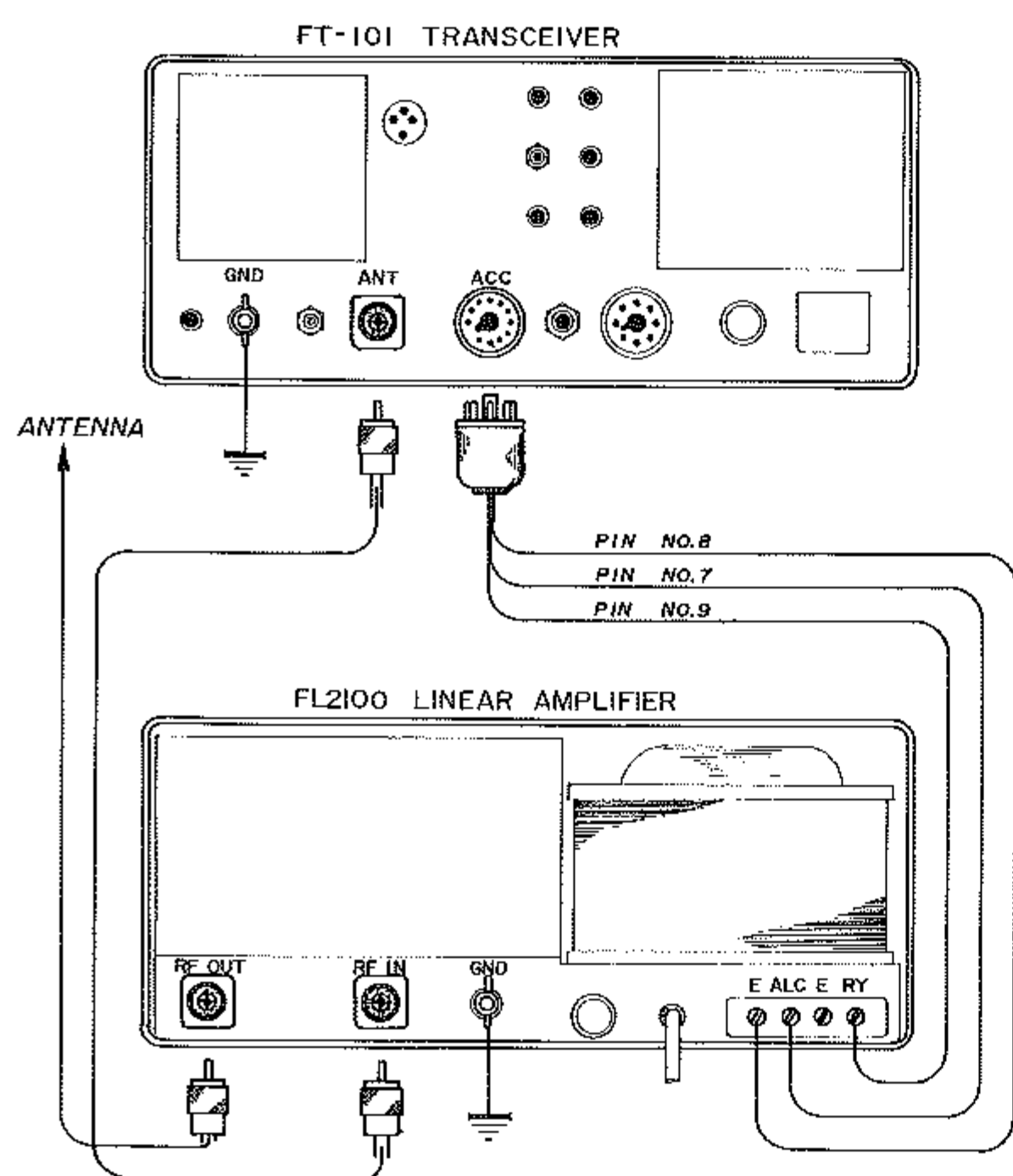
- (1)OPER-STBYスイッチ…………… STBY
- (2)SWR-IPスイッチ……………SWR
- (3)F-Rスイッチ……………F
- (4)SENSつまみ……………MIN (下方向一杯)
- (5)PLATEつまみ……………使用するバンドごとに**第3表**の目盛

- (6)BANDつまみ……………使用するバンド
- (7)LOADINGつまみ……………**第3表**の値よりやや左以上のようにセットして、まずエキサイターの電源をいれて使用する周波数で完全に調整します。エキサイターの出力は、本機のPOWERスイッチがOFFのときには本機のSWR計回路のみを通して直接アンテナに供給されています。このとき本機のメーターをSWR計または相対値指示の通過型電力計として利用することができますが、これについては8ページを参照してください。

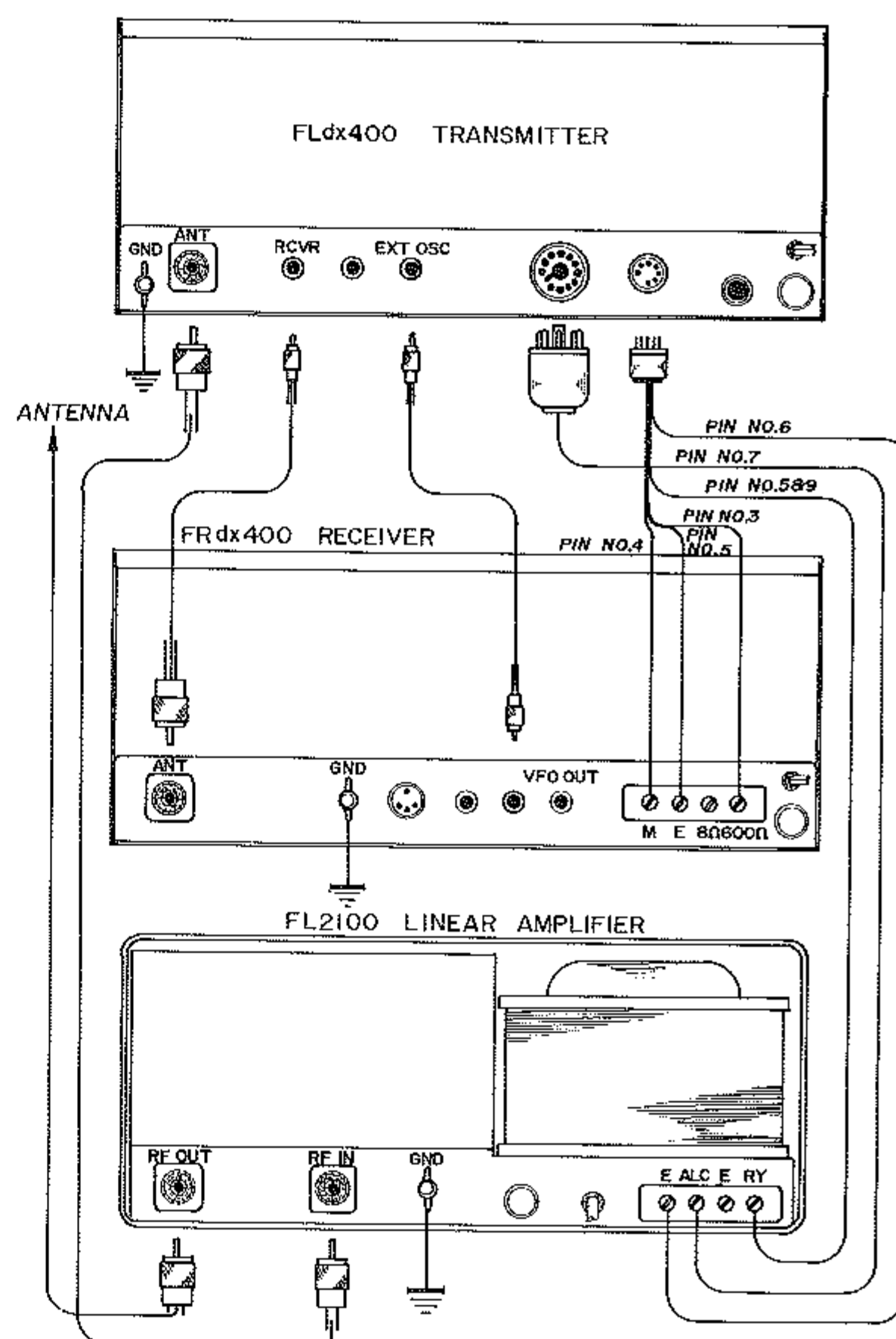
バンド (メーター)	周波数 (MHz)	PLATE	LOADING
80	3.5	1	1.5
	4.0	6.5	5.5
40	7.0	6	2.5
	7.5	7	3
20	14.0	7.5	3
	14.5	8	3.5
15	21.0	9	4
	21.5	9.5	4
10	28.0	9	4
	29.7	10	4.5

注：励振電力 100W，負荷抵抗50Ωのときの値を示す。励振電力，アンテナの状態によってこの表の値と異なる場合があります。

〔第3表〕 PLATEとLOADINGの指示



〔第1図A〕 FT-101との接続



〔第1図B〕 FLdx400,FRdx400との接続

送信操作

- (1)エキサイターを受信状態にもどす。
- (2)POWERスイッチをONにする。スイッチの上のランプが点灯します。フィラメントが暖まるまで約30秒そのまま待ってください。電圧計が約2400Vを指示するはずで。
- (3)SWR-IPスイッチをIPにする。
- (4)エキサイターをCWで送信状態にする。
- (5)OPER-STBYスイッチをOPERにする。スイッチの上のランプが点灯し、電流計が振れます
- (6)PLATEツマミをすこしまわして電流計の指示が最小になるようにします。
- (7)LOADINGツマミをすこし右にまわしてみます。電流計の指示が増えますが、0.5Aをこえないようにしてください。
- (8)6と7を繰り返して電流計の指示が0.5Aをこえない範囲内で出力が最大になるようにします。出力の最大点を知るためには電流計を通過型電力計として使います。電流計の使い方については後述します。

注意 6～8の操作は5秒以内で行なってください。5秒をこえるときは5～10秒休んで繰り返すようにしてください。

- (9)送信するまえにアンテナとの整合状態を確認してください。(後述、電流計の項参照)
- (10)以上で送信の準備完了です。CWで送信するときはそのままエキサイターをキーイングすればよいわけです。このときプレート電流は、約0.5Aになります。
- (11)SSBで送信するときはエキサイターをLSB又はUSBで送信できるようにしてマイクにむかって話をします。マイク入力がないうちのプレート電流は約0.09A、マイクに音声をいれたときのプレート電流は0.2～0.3Aになります。これはメーターの慣性によって実際のプレート電流より少なく指示されていますから、実際にはこれ以上の電流が流れていますのでこれ以上の電流を指示しないように注意して下さい。
- (12)本機をAMで使用することは望ましくありませんので、できるだけAMでは送信しないでください。どうしてもAMで送信しなければなら

いときは無変調時のプレート電流が0.2A以下になるようにしてください。プレート電流が0.2Aのときの入力は約500Wです。

- (13)使用中、リニア・アンプを通さずにエキサイターで直接送信したいときにはOPER-STBYスイッチをSTBYにするかPOWERスイッチをOFFにすればエキサイターの出力は本機のSWR検出回路のみを通してアンテナに供給されるようになっています。
- (14)送信機の切換えはOPER-STBYスイッチを上側のOPERにセットしたままで外部から行なうことができます。シャシー背面の端子板J₅の端子のうちRYとE端子を短絡すると送信、開放すると受信になります。当社のセットをエキサイターとして使用する場合はすべて外部のリレー回路制御用のリレー接点がありますので第2表のように接続することによってエキサイターの送受信を切換えることにより本機の送受信切換えを連動させることができます。また外部からリレー制御をすることができない場合は、RY端子とE端子を短絡した状態でパネル面のOPER-STBYスイッチによって送受信切換えをすることができます。このときはOPERで送信STBYで受信になります。

電流計のはたらきについて

パネル面の電流計はプレート電流計、SWR計および相対値指示の通過型電力計として使うことができます。

(1)プレート電流計として使うとき

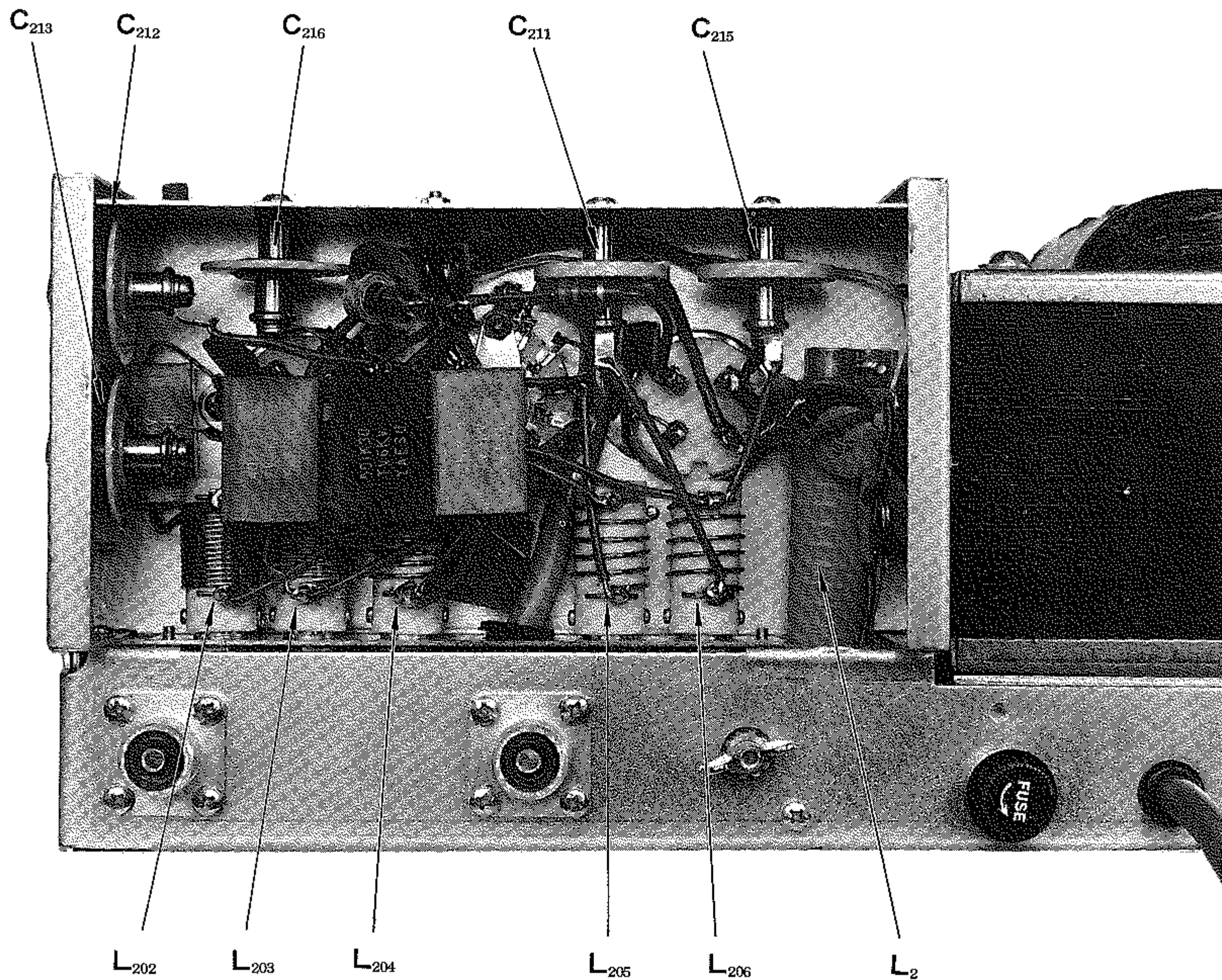
SWR-IPスイッチをIP側にセットすると高圧電源整流回路の帰路にはいつているシャント抵抗R₄がメーターと並列に接続されてフルスケール0.6Aの電流計になり2本の真空管のプレート電流の合計値を指示します。このとき目盛は下側を読んでください。

(2)SWR計として使うとき

まずSWR-IPスイッチをSWRにセットし、F-RスイッチをFにします。この状態で送信し、このときメーターの指示がフルスケールになるようにSENSツマミをまわしてセットします。つぎにF-RスイッチをR側に倒せばメーターの上側の目盛でSWRの値を直読できます。SWR計は

本機の出回路とアンテナとの整合状態を知るためのものですが、本機のPOWERスイッチをOFFにするか、OPER-STBYスイッチをSTBYにすることによってエキサイターとアンテナの整合状態を知ることもできます。しかしこの場合、周波数によってはSENSつまみを最大（上側一杯）までまわしてもメーターがフルスケールまで振れないことがあります。これはSWR計の検出回路の長さが波長にくらべて短くなるほど検出電力が小さくなるためで、本機を10W型のJARL認定対象機でドライブする場合にも同様のことが起こります。このようなときにはF-RスイッチをFにしたときのメーターの指示を下側の目盛で読み、この値をIfとし、F-RスイッチをRにしたときの指示をIrとします。このときのSWRは、

$$SWR = \frac{I_f + I_r}{I_f - I_r}$$



〔写真3〕 サブシャシー内部のようす

として求めることができます。

(3)通過型電力計として使うとき

SWR-IPスイッチをSWRに、F-RスイッチをFにセットすれば出力の大小を知ることができます。このときスケールオーバーしないように、SENSつまみでメーターの振れを調整してください。ただしこのときのメーターの指示は電力の絶対値ではなく、あくまでも電力の相対的な大きさを知るだけですのでご注意ください。

電圧計のはたらきについて

高圧電源電圧を知るために本機では高圧整流出力電圧の2分の1の点の電圧を倍率器R₅を通してパネル面のメーターに指示させており、高圧電源電圧を直読できる目盛をもった電圧計として使っています。この電圧は受信中は約2400Vを指示し、送信中は2000～2300Vを指示します。

回路と動作について

入力回路

J₄に加えられたエキサイターからの高周波入力はりレーを通り、バンドスイッチによって各バンドごとの入力同調回路に加えられます。入力同調回路はパイ型の同調回路で入力インピーダンスは約50Ωに設定されています。入力同調回路を通った入力は並列に接続された2本の572Bのフィラメントに接続されます。

受信時にはりレーによってJ₃とJ₄は直接接続されます。

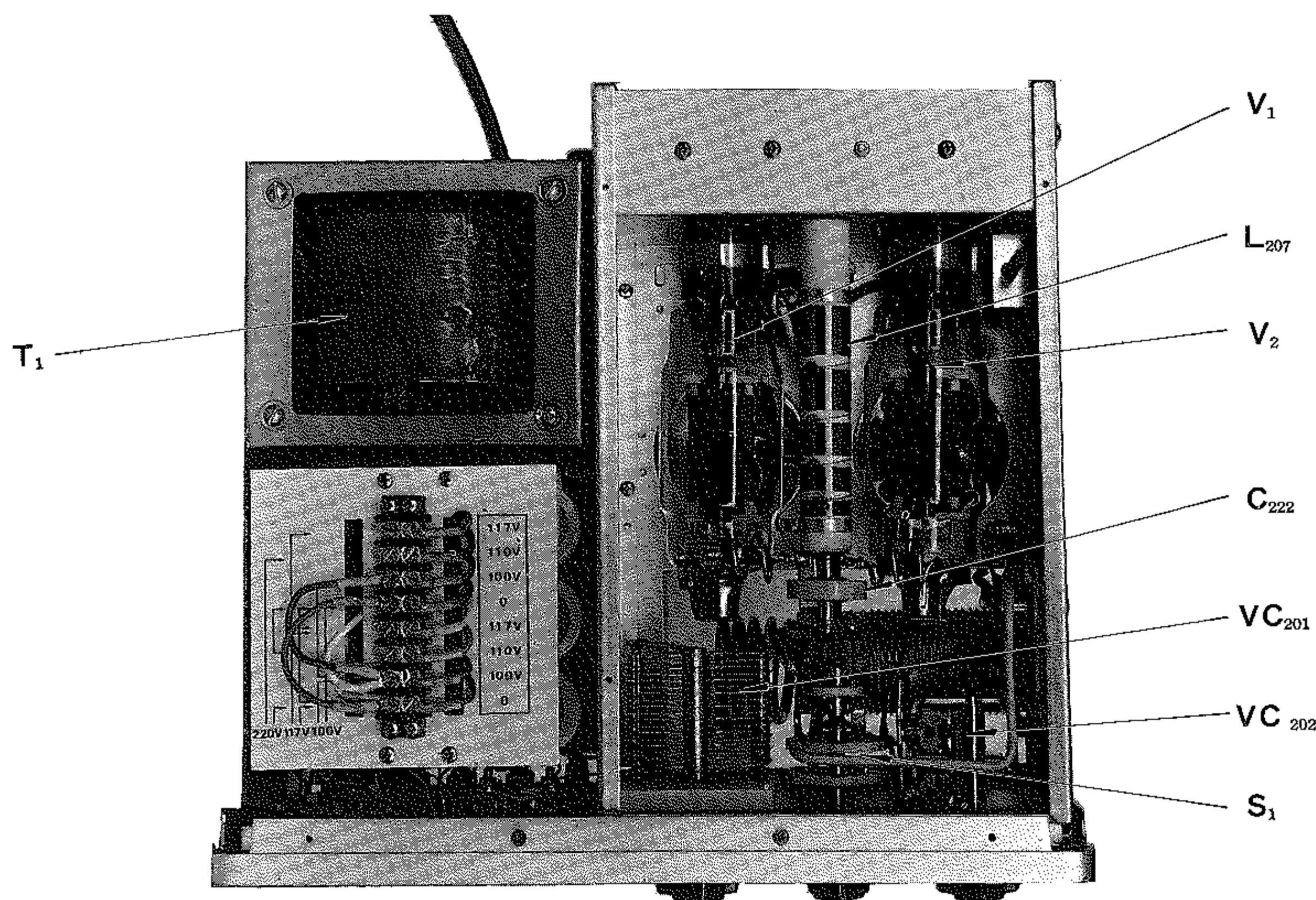
増幅部

増幅部はSSB専用送信管572Bを2本並列に接続した格子接地型の直線増幅器です。572Bは、SSB信号の増幅用として特に設計された大電力、低歪率の送信管で、無信号時プレート電流が2本

の合計で約90mAになるようにグリッドには約-2Vのバイアス電圧をかけてあります。受信時にはこのバイアス電圧を約-15Vとしてカットオフにします。ヒーター電圧は高周波チョークL₂₀₇を通して加えてあります。

出力回路

各真空管の出力は寄生発振防止用のチョークコイルを通して並列に接続されC₂₂₂を通してパイ型出力同調回路にはいります。出力同調回路は80メートルバンドから10メートルバンドまでを5バンドに切換えてカバーし、バンドスイッチS₁とS₂でタンクコイルL₁のタップとプレート同調コンデンサおよびローディング調整コンデンサの付加容量を



〔写真4〕 シャシー上部のようす

切換えており、各バンドごとにPLATEバリコンVC₂₀₄とLOADINGバリコンVC₂₀₂により50~75Ωの負荷に整合するようになっています。出力同調回路からの出力はリレーとSWR計検出回路を通してJ₃に接続されます。

ALC回路

入力信号の一部はC₂₀₃を通してD₂₀₁1S1007に加えられ、D₂₀₁に加えられたバイアス電圧をこえるとD₂₀₁によって整流されシャシー背面の端子板のALC端子に供給されます。

メーター回路

本機は2個のメーターをもっており、一方はプレート電流計およびSWR計として使用する電流計で、このメーターの動作はSWR-IPスイッチS₅によって切換えられます。プレート電流計として使う場合は並列にR₃を接続してフルスケール0.6Aの電流計として高圧電源の全電流を指示させており、SWR計の場合は、リレーとJ₃の間に設けた検

出回路により進行波電力および反射波電力の一部をとり出し、それぞれ1S1007(D₂, D₃)で整流して、直流を得てメーターを振らせます。

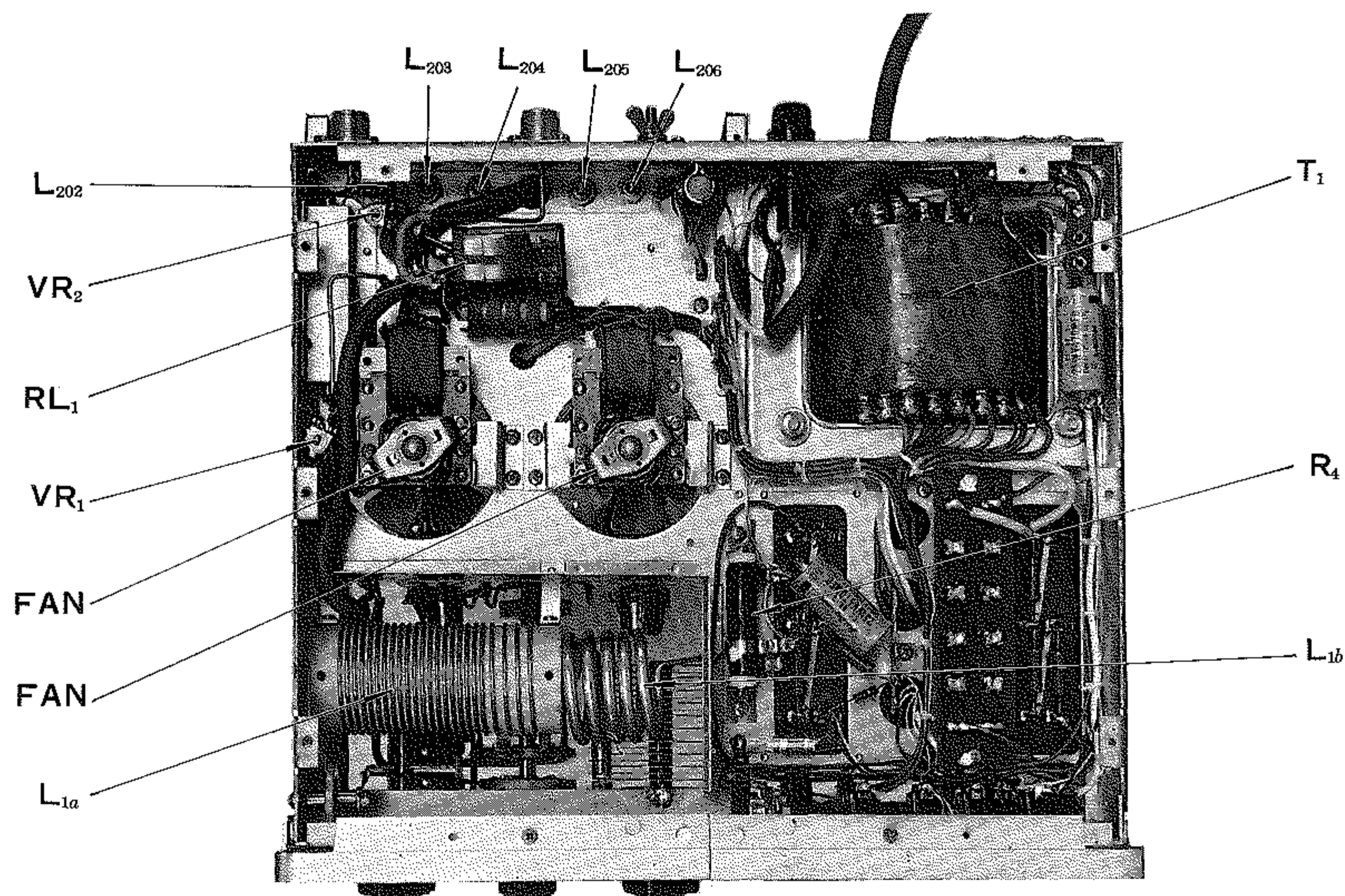
一方、電圧計は高圧電源の中心の電圧を倍率器R₅を通してメーターM₂に指示させています。

電源回路

高圧電源は、電源トランスの高圧巻線の電圧を10本の整流ダイオード10D10(D₁₀₁~D₁₁₀)で倍電圧整流して2400Vの電圧を得て真空管のプレートに供給しています。高圧の極く一部はALC電圧整流ダイオードD₂₀₁のバイアス電圧として利用しています。

フィラメント電源は電源トランスのフィラメント電源巻線の電圧をフィラメントチョークL₂を通して各真空管に供給しています。

電源トランスの13V巻線の電圧はインジケータランプの電源およびD₁で整流してリレー電源と真空管のバイアス電圧として使っています。



〔写真5〕 シャシー下部のようす

***** 保守と調整について *****

本機は出荷前に各調整部を完全に調整し、厳重な検査をしてありますが、長い間ご使用いただいているうちには調子が悪くなったり故障することもありますのでそのときは当社池上工場サービス課または大阪サービスステーションにご連絡くださるか以下の説明に従って調整してください。

真空管を交換するには

真空管が劣化した場合はケースからシャシーを取出し、シールドカバーをとめてある2個のネジをとってシールドカバーをはずして真空管を交換します。真空管を交換するときはPOWERスイッチをOFFにして10分以上たってから行なってください。

バイアスの調整

底蓋の止メネジ6個をとって底蓋をはずします。本機を動作状態にして励振電力がない状態でプレート電流が0.09Aになるようにホーロー抵抗 R_4 のタップを調節してください。この調整をするときはシャシー内部に高圧がかかっている部分がありますので感電しないように十分注意してください。また冷却ファンが回転していますからファンにふれないよう気をつけてください。

SWR計の調整

シャシーをケースからとり出しPOWERスイッチをOFFにしておきます。RF IN(J_4)にエキサイターを、RF OUT(J_3)に50 Ω ダミーロードを接続してエキサイターから7MHz以上のバンドで約100Wの出力をCWで供給します。SWR-IPスイッチをSWRにし、F-RスイッチをFにセットしてメーターの指示がフルスケールになるようにします(SENSつまみで調節する) つぎにF-RスイッチをRに倒してこのときメーターの指示が最小になるように VR_2 を調整します。つぎにエキサイターとダミーロードをいれかえて接続(RF INにダミーロードを、RF OUTにエキサイターを接続)してF-RスイッチのR側でフルスケール、F側にしたときメーター指示が最小になるように VR_1 を調整します。この調整は2～3度繰返して行なってください。

入力同調回路の調整

入力同調回路の調整は各バンド毎に行ないまず実際の使用状態と同じようにエキサイターと電源をつなぎRF OUTにはダミーロードを接続しておきます。各バンドの中央付近で調整するための必要最小限のドライブをかけLOADINGつまみを0にセットして送信状態とし、プレート電流が最大になるようにそれぞれのバンドの入力コイル($L_{202} \sim L_{206}$)を調整します。

FL-2100 PARTS LIST

C-CAPACITOR				S-SWITCH			
1, 2	CERAMIC DISC	1.4KV DC	0.01 μ F	1	BAND SW		
				2	"	2-4-5	
3, 4, 7, 8, 9	CERAMIC DISC	500WV	0.01 μ F	3	(POWER)	WD 2301	
205~208, 210, 225			+100 -0%	4	(OPER-STBY)	WD 2301	
5	ELECTROLYTIC	25WV	1000 μ F	5	(METER SW)	WD 2101	
209	ELECTROLYTIC	50WV	2.2 μ F	6	(SWR F-R)	WD 2101	
101~106	ELECTROLYTIC	500WV	100 μ F	7	P SAFETY LOCK		
201, 202	DIPPED MICA	500WV	200PF \pm 10%	F-FUSE			
203	"	"	5PF "	1	AC 100V~117V	20A	
204	"	"	50PF "		AC 200V~234V	15A	
211, 215, 224	CERAMIC	TV3K RDA-30	100PF	FH-FUSE HOLDER			
212, 217	"	"	250PF	1	SN-1001		
216	"	"	200PF	PL-PILOT LAMP			
226	"	"	300PF	1, 2	14V 30mA		
221, 222	"	"	1000PF	M-METER			
223	CERAMIC	TV3K RDA-40	500PF	1	PF-45-1675	1mA/600mA	
213	MICA	TV6K	350PF	2	PF-45-1674	3KV	
214	"	"	500PF	FAN			
219, 220	"	"	1000PF	1, 2	2S10A (FAN)		
218	"	"	400PF	J-JACK			
				2	H,	8P	
				3, 4	JSO-239 (INCH)		
				5	4PC		
				P-PLUG			
				3, 4	JPL-259 (INCH)		
				VC-VARIABLE CAPACITOR			
				201	(PLATE VC)	115PF (MAX) AIR	
				202	(LOADING VC)	430PF \times 2 AIR	
				VR-VARIABLE RESISTOR			
				1, 2	B500 Ω		
				3	B100K Ω		
				L-INDUCTOR			
				1a	TANK COIL		
				1b	10 M TANK		
				201	GRID RFC		
				202	80 M INPUT COIL		
				203	40 M "		
				204	20 M "		
				205	15 M "		
				206	10 M "		
				207	PLATE RFC		
				2	HEATER CHOKE		
				3	RFC		
				208, 209	PARASTIC COIL		
				RL-RELAY			
				1	AW 5221 GK	DC 12V	
				T-TRANSFORMER			
1	POWER						

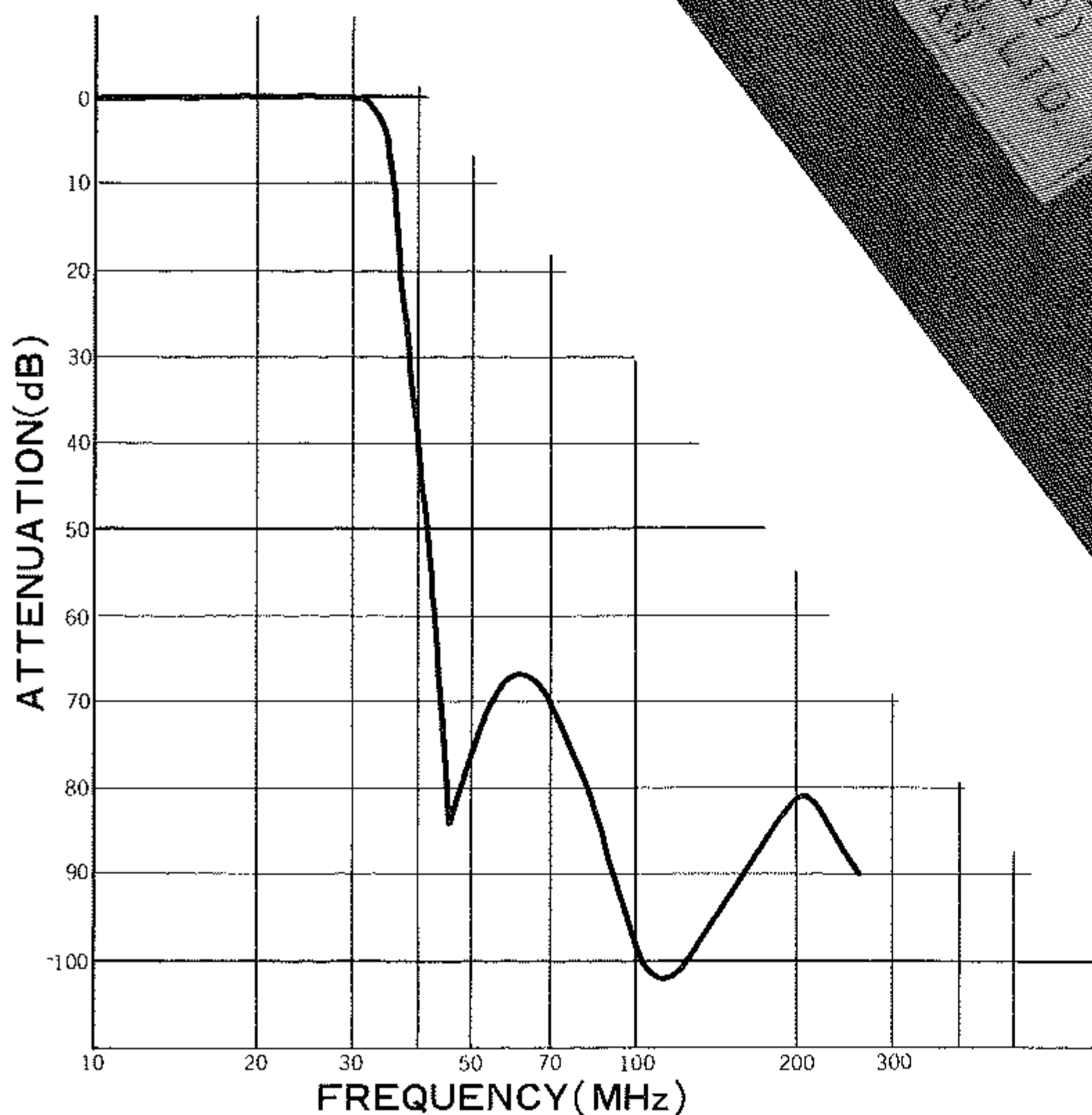
ハイパワーに耐える

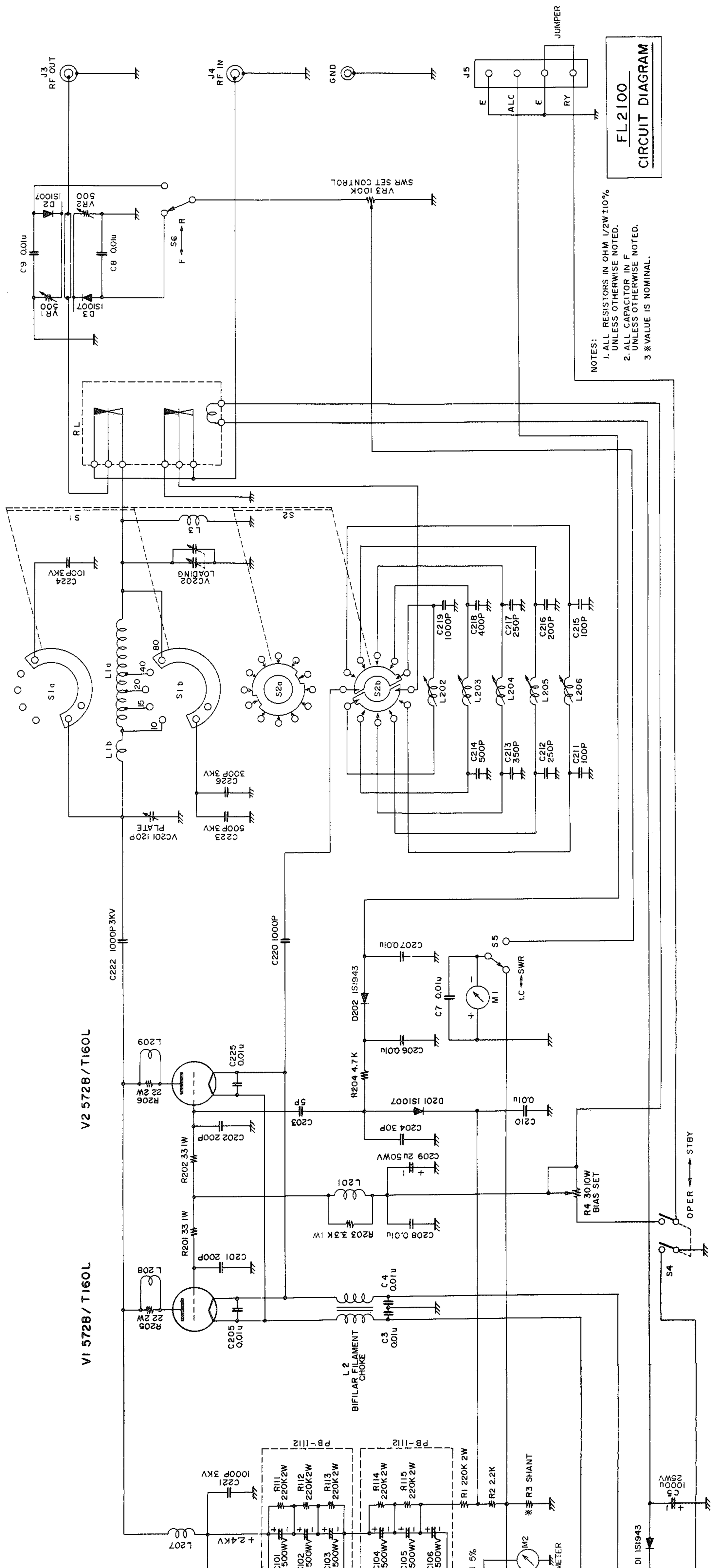
FF-50DX ¥3,450

FF-50DXは送信機の30MHz以上の不要輻射を防止してTVIなどの妨害を減らすために使う高性能なローパスフィルタです〔特長〕★理想的な同軸円筒形でコイルの直径と円筒の内径との比を適切にとってあるため内部の同軸路線インピーダンスが52Ωになり、送信機との間のマッチングが完全です★Qの高いコイル、高品質のシルバードマイカコンデンサの併用と完全な内部シールドによって優れたフィルタ効果を示します★太い線径(2mm)のコイルと高耐圧(3kV)のコンデンサの使用で1200W P.E.P.のハイパワーまで何の心配もなく使えます

〔定格〕★カットオフ周波数：35MHz★入出力インピーダンス：52Ω±10%★最大使用電力：1200W P.E.P.★保証減衰量(40MHz以上)：60dB以上★挿入損失：0.5dB以下

(写真は実物大)





NOTES:
 1. ALL RESISTORS IN OHM 1/2W±10%
 UNLESS OTHERWISE NOTED.
 2. ALL CAPACITORS IN P
 UNLESS OTHERWISE NOTED.
 3. *VALUE IS NOMINAL.

FL2100
 CIRCUIT DIAGRAM

